



2025

3

第418号

真宗大谷派京都教区教化広報誌

教区だより

特集

地区紹介 山城・石見

レポート

青少年教化研修会、赤野井別院報恩講

今、この時に、親鸞聖人に会う

長浜第24組 藤谷 法子 氏

ふじたに のりこ

特集

石見地区紹介

石見地区
石東組・石西組

石見地区教化の現況

島根県の西半分が石見地区と呼ばれ、行政上は4市5町で構成されていて東西140kmにおよぶ広範囲な地区です。京都教区の最西端となりますが、石西組と石東組の二つの組が一緒になって教化の取り組みを行っています。

一世紀以上に複数寺院の取り組みとして開催をされていた「石見学場」を、地区の教化事業として僧侶を中心に毎年開催し、コロナ感染症による影響はありましたが継続して取り組んでいます。また、地区内の各寺院での報恩講のお勤めを確かめるために、事前の声明講習会の開催も行っています。

石東組では、組内の各寺院を巡回しながら会処にして、真宗本廟での奉仕研修を含め年9回の「真宗門徒の集い」が教化事業として開催されています。毎回講師のお話を聞き、その後は座談会を持ち、聞かせていただいたことの確かめを行っています。各回の講師のお話の

石見地区教化委員長
石東組 浄本寺 串崎 法之



概要は登録者全員に次回の開催案内に併せ送付し、座談会の内容についても記録し、開催日前日の講師及びスタッフ（任職等）会議の中で報告し

て共有されています。また、参加者の中には一年間で終了ではなく、最初から約20年も続けて参加されている方もあります。

二つの組にそれぞれの取り組みの経過があり、その歩みは大事にしなから地区としての教化をとに進めてまいりたいと思っています。



石東組「真宗門徒の集い」の様子

石見地区教化の歴史

明治時代、松江には相続講事務所が置かれ、山陰沿岸に鉄道が普及し、石見・出雲・伯耆・因幡の四ヶ国にある大谷派寺院は、京都市の列車とともに京都教区へと位置付けられてきました。

宗祖七百回御遠忌の折には、車内で集金をするのに一晩かかったと、ある住職がおっしゃっていました。

同朋会運動が進むなか、地区で同朋大会が行われた際には、離れていても、会場寺院に泊まり、聞法をされていたそうです。

かつては地区差別問題学習会も年間十回行われており、大谷派での差別事件を学んだり、資料やテキストを輪読したり、自主的に積立したお金で、国賠訴訟の前にハンセン病国立療養所を訪れたりしていたようです。

道も改良され、移動時間は車で2時間以内に収まるようになりましたが、そうしたゆっくりとした聞法会や、定

石見地区教化副委員長
石西組 専龍寺 前田 賢龍



例の学習会はほぼなくなっていました。現在、石見地区では長らく石東組・石西組交互に担当し、各寺の女性坊守や女性門徒が協力して運営し聞法会を行っています。この会が、地区内の門徒や寺族が揃い集まる貴重な教化事業と言えるでしょう。

組中心の教化活動が進む中で、急速な人口減少による集落消滅や、自粛期間を経験した今、地区で教化事業として何を目指し、何をするのか、確かめが必要であると感じます。



石西組 子どもの集い

青少年教化部会 青少年教化研修会

いつまでも純真なれ、いつまでも未熟なれ、いつまでも持続せよ

青少年部会
長浜第15組 願養寺 長美幸



12月7日、8日に京都教務所にて「私にとつて青少年教化とは」をテーマに児童教化（青少年教化）の歴史、大切にすべきこと、これからの方向性について、ゲームを盛り込んでいただきながら、三品正親先生の楽しく深い講義をいただきました。

汚れなき生をうけたる衆生もあらん。彼等法を聞かずば終いに滅亡せん。（『児童と宗教』真宗児童聖典）

汚れ少ない衆生、子どもたちが仏法に遇わなければこの社会は滅びてしまう。子どもたちに仏法を届けなくてはならないという使命感。次の世代に何を伝えていくかという真剣なとりくみ、多くの先達が児童教化に火を灯してくださいましたことを教えていただいた。

「使命感はありますか」と問われれば、答えることが出来ない自分がある仲間とともに学んでいきたいと思いました。青少年教化で大切にすべきことは、

子どもたちから学び、子どもたちから教えてもらうという姿勢である。いつまでも純真なれ、いつまでも未熟なれ、いつまでも持続せよ。とは簡単なようで難しいことです。すぐに子どもの心を忘れ、慢心してしまふ。特に持続することはいろんな理由をつけて逃げてしまふ私。青少年教化はどんな時でも子どもたちと関わっていくことが大切であり、できない理由を探すより、何ができるかを考えれば持続可能になることも研修会で知ることができました。

子どもの気持ちに寄り添う青少年教化を目指し、子どもたちから学ぶ姿勢を忘れず、お念仏を大切に、子どもたちと一緒に歩んでいきたいと思ひます。

青少年教化研修会を通しての 気付きと今後の目標

この度の青少年教化研修会で一番気付かされたことは、講師の三品先生が話された「出来ない理由はたくさんあるが、出来ることを見つけていく」という言葉でした。私の寺院も含め、参加者の方々に門徒の子供さんがいなくなったことで日曜学校を中止したり、やめたりしているという声が多かったので、三品先生には子供がいらないという理由で教化活動をやらないのではなく、自らが子供のいるところに向かい、歩みを止めない努力を続けることを教えて頂きました。

長浜第23組
安覚寺 松室哲明



また、今回の研修会は新教区での初めての研修でしたが、お互いの教化事業報告をした際に、長浜特区での花まつりや、子ども報恩講への子供の参加人数の多さに驚かれました。私が今まで当たり前だと思っていたことは大変素晴らしいものであったと改めて感じたとともに、先人の方達が次の世代へ教えを伝えようと努力し続けた賜物だと感じました。私たち自身もこの受け継がれてきた歴史を大切にして、各寺院で状況などは違うものの「歩みを止めない」という思いを大事にしながらこれからの教化活動に尽力していきたいです。

今回の研修会の座談会や懇親会を通して多くの方と意見交換が出来ました。次の世代に継いでいく為に私たちは何をしたいのかという志を胸に、共に学んでいく仲間や教えを頂ける先生方に会えて大変良い経験をさせてくださいました。このご縁を大切にしてより多くの方と繋がりが出来るような教化活動をしていきたいです。



赤野井別院
報恩講

先人の願いが根ざす土地、赤野井

2024年10月26日〜28日の3日間、赤野井別院にて報恩講が勤まりました。私は教区准堂衆会賛助会員として28日の日中法要に参勤いたしました。赤野井別院への参勤は2回目と経験が浅く、準備や段取りをされている先輩方の後について勉強をさせてもらいました。本当に先輩方についていくこと自体に必死で、あつという間に本番の時間になりました。

この日は本山鍵役の御参修もあり、普段の報恩講の荘厳とは異なる点があつて新鮮でした。法要が始まるまで多くの門徒、僧侶、業者のご協力のお蔭でやつと一つの法要が勤まるという事実が大変身に沁みました。法要が始まり、着座した瞬間に参詣者の想いが伝わってきた上、楽も入ることと更に厳肅な雰囲気になり、気が引き締められました。

今回の経験で今までなんとなく出仕

出版部会

山城第4組 光久寺 徳田潤子



していた地元の別院報恩講の見方も変わりました。見えない箇所でも沢山の方向が担い、恩に報いる気持ちで法要という形で表して大事にされてきた事を感じました。

また、別院がこの土地にあるということとは真宗の教えを絶やささないで次の世代に伝えていって欲しいという先人達の願いが引き継がれてきた証拠だと思わずにはいられません。

このような貴重な経験をいただいた事に感謝しつつ、今後先輩方にご教示いただきながらお役を担っていききたいと思えます。



赤野井別院

ひとひと
男と女の平等って、なに？

いのちがともに生きるとは？

男女共同参画という言葉が使用されるようになってどの位になるでしょうか。

〇〇婦という女性だけが就いていた職業には、男性の姿も見られるようになりました。〇〇女性会や婦人会という名称だった団体も会の名前が改められました。私の既成概念で男性の仕事だと思っていた仕事を女性がされているのもだんだんと違和感がなくなってきました。企業や会社でも女性の管理職が徐々に増え、政治の世界でも女性が活躍

されることが推奨されています。にもかかわらず、その数は男性が多い日本の社会です。

私の寺でも「尼講」という女性の聞法会があったのですが、「ご命日の集い」という名前に変え、どなたでも参加いた

出版部会 近江第2組 圓通寺 井上教真

けるようにしました。とはいっても、元女性の会という印象が強いのか、法座や寺報で呼びかけても男性の出席は稀にしかないのが現状です。

世代にもよるのですが、依然これは男の仕事、女の仕事という思い込みによって、これまで男性女性に特化して存在していた組織に参加することに抵抗があるようです。私自身はどうかというと、元女性の会だった研修に参加したりはしていますが、全く違和感がないかと言えは嘘になります。会場に入り、男性の姿を確認して初めて安心して座ることができます。

浄土真宗という往生のはたらきの一つに、「共に生きる」というはたらきがあるようですが、我々が様々な事柄を含め共に生きるとはどのような生き方なのでしょうね。

今、この時に、 親鸞聖人に会う



報恩講によせて

出版部会

長浜第24組明樂寺

藤谷法子



竊かに以みれば、難思の弘誓は難
度海を度する大船、無碍の光明は
無明の闇を破する恵日なり。

（『教行信証』総序 真宗聖典第二版159頁）

十月二十五日長浜別院大通寺の報恩
講へ参拝させていただいた時のお話です。
その話をするには子供の頃まで遡ら
なければなりません。

お寺の長女として十一月二十八日に
生まれた私は七歳ぐらいの頃、ノートの
端に「私の誕生日は」親鸞聖人のご命
日、やつた」と落書きをしていました。
それを父が見つけ、とても喜んで私の
誕生日が来るとこの言葉を合言葉のよ
うに言って喜んでいました。また時々法
話のような話も聞か
せてくれていたような
記憶もあります。で
もまだ子供だったので
なんの反応もなかった
と思います。



写真: MIHO IGAWA

ん（私のニックネーム）の誕生日は、やっ
たりやもんな」と言って喜んでくれま
した。そうこうしているうちに不思議
なのですが住職とご縁があり、湖北のお
寺に嫁ぐことになったのです。きつと父
は大喜びするだろうと思っていました、
思った程もなく、「そうか、よかったな」
という程度。今から
思うとその頃から軽
く認知症が始め、娘
のことよりも自分の身
体がしんどかったのか
もしれません。
結婚式の終わりに父
は「湖北の門徒さん
にお育て頂くんやで」と
いう意外な言葉をプレ
ゼントしてくれました。
当時、その意味がわか
らない私でしたが「こ
れはとてつもなく大事
な言葉だ」と身体で感じました。新生
活が始まり正信偈も読んだことがない、
教えの事など知らうともしなかった私
が、だんだんと真宗の教えを感じられ
るようになり、ようやく父とそんな話
をしたいな、となった頃には残念ながら
認知症が進んでしまっていました。

そんな父とお別れして昨年、十三回
忌を勤めました。
さて、先日参拝した大通寺の報恩講
での出来事。結願日中、下高座の最中。
私は多くの参拝者の一人として豊に座っ
ておりました。美しく鳴り響く雅楽の
音色とお声明の中、一瞬、お内陣に父の
後ろ姿が見えました。（本当に見えたわ
けではなく似たような衣姿のご住職で
した）。同時に前日の晩、住職が私に話
してくれた総序の文がお声明と共に頭
の中で聞こえてきました。感動という
か何というか、涙が止まらなかったのは
言うまでもありません。
私の意思や世間の価値観と関係なく
ご縁を生きる生活でいいんだ。
このように感じられる私がいること、
父に出会わせてくださったこと、湖北の
地に来させていただいた事、数えきれな
い阿弥陀仏からのご縁を、お心を、お
念仏で返す日々です。
私の娑婆でのご縁はいつまでか分か
りませんが阿弥陀様の船に乗り、いった
この先、どんな景色が見られるのかな、
とわくわくしながら一日一日生きてい
る今の私です。

京都教区 3月の教区事業

4日(火)	9:30~16:30	部落差別問題に学ぶ同朋協議会 現地研修会	フィールドワーク(京都市内)
5日(水)	9:30~15:30	坊守会 基礎講座 (Zoom 併用)	教区会館 2階 大講堂
11日(火)~12日(水)		第17期 第3回 伝道研修会	教区会館
25日(火)~27日(木)		得度事前学習会 (25・26日 京都、25~27日 長浜)	教区会館(京都)、長浜別院(長浜)
27日(木)~30日(日)		福島子どもたち一時非難受け入れの会 保護事業	大谷大学湖西キャンパス
28日(金)	9:00~16:00	春の子ども本山参り	真宗本廟

京都教区 3月の教区諸会議

6日(木)	13:30~16:30	教化本部会 教化調整協議会	教区会館 2階 大講堂
18日(火)	13:30~16:30	[旧長浜] 財政委員会専門部会	長浜教務支所
19日(水)	13:30~16:30	教化本部 研修講座部会 会議	教区会館 2階 大講堂
24日(月)	13:30~17:30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議 (Zoom)

教務所からのお知らせ

敬申

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- ・長浜第十二組 徳善寺 住職 飯村 英章 五十五歳
二〇二四年十二月一日
- ・長浜第十四組 光覺寺 前任職 榎 八十四歳
二〇二四年八月五日
- ・長浜第十八組 成満寺 前任職 稲葉 嘉壽榮 九十二歳
二〇二四年十二月二十二日
- ・近江第一組 福藏寺 住職 堀江 義麿 八十六歳
二〇二四年十月一日
- ・近江第七組 淨念寺 前任職 藤野 富智子 八十四歳
二〇二四年十一月二十日
- ・近江第九組 養専寺 前任職 安孫子 篤臣 八十五歳
二〇二四年十二月二十日
- ・出雲組 胎泉寺 前任職 藤本 順子 九十一歳
二〇二四年十一月二十日
- ・出雲組 妙覺寺 前任職 三桐 慈海 九十歳
二〇二四年十二月八日
- ・出雲組 蓮光寺 前任職 青山 チヨ 八十三歳
二〇二四年十二月二十六日
〔寺院教会番号順 敬称略〕

長浜教務支所の現金取扱日について

今年度下半期(2025年3月~6月)の長浜教務支所の現金取扱日は左記のとおりです。お知らせいたします。

3月10日(月)	3月24日(月)
4月14日(月)	4月28日(月)
5月12日(月)	5月26日(月)
6月9日(月)	6月23日(月)

教区だより表紙写真大募集!!

本誌表紙写真を大募集いたします! テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。詳しくは京都教務所(担当:赤松)まで。お待ちしております!



依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から一年余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もなお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいります。なにとぞ趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
「令和6年能登半島地震について」

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区 公式SNSあります!

公式SNSで更新情報や、8ページに掲載の「今月のことば」についてのこととメッセージなどを配信しています。登録よろしくお願ひします!

LINE公式アカウント

2025年2月3日現在登録者数134名

LINE ID @441foywe



京都教区別院 3月の行事予定

1日(土)~4月16日(水)	長浜	大通寺 馬酔木展	長浜別院
4日(火) 13:30~16:30	山科	同朋の会 法話 磯野恵嗣師 (山城第1組 新道寺)	山科別院
5日(水) 13:30~16:00	五村	五日会(連続講座) 法話 東館紹見師 (大谷大学教授)	五村別院
5日(水) 12:00~13:00	赤野井	定例法要(教如上人) 法話 中川眞師 (別院輪番)	赤野井別院
5日(水) 14:00~16:00	山科	定例法話 法話 治田保男師 (近江第2組 浄安寺)	山科別院
6日(木) 14:00~16:00	伏見	声明作法講座 法話 浅井誠師 (山城第3組 皆演寺)	伏見別院
10日(月) 14:00~18:00	伏見	同朋会 物故者追弔会 法話 渡邊晃師 (教区駐在教導)	伏見別院
10日(月) 19:00~21:00	伏見	坊守学習会 法話 渡邊晃師 (教区駐在教導)	伏見別院
11日(火) 14:46~	長浜・五村	勿忘の鐘	長浜別院・五村別院
12日(水) 13:30~16:30	伏見	同朋の会 法話 小川直人師 (山城第2組 長休寺)	伏見別院
13日(木) 10:00~11:30	岡崎	三日講「味読正信偈」 法話 福田大師 (別院輪番)	岡崎別院
14日(金) 9:00~11:00	山科	おみがき	山科別院
18日(火) 10:00~11:50	長浜	春季彼岸会 法話 伊藤慈成師 (長浜第13組 真入寺)	長浜別院
19日(水) 10:00~11:50	長浜	春季彼岸会 法話 野々目了師 (近江第9組 妙宗寺)	長浜別院
20日(木) 10:00~11:50	長浜	春季彼岸会 法話 藤本有師 (長浜第21組 浄福寺)	長浜別院
20日(木) 14:00~16:00	大津	春季彼岸会兼永代経総経 法話 但馬末利花師 (小松大聖寺 興宗寺)	大津別院
20日(木) 14:00~16:00	山科	春彼岸会法要	山科別院
21日(金)~5月11日(日)	長浜	早川鉄平氏切り絵障子展示	長浜別院
21日(金) 12:00~13:00	赤野井	春季彼岸会法要 法話 中川眞師 (別院輪番)	赤野井別院
22日(土) 14:00~16:00	伏見	彼岸会 法話 一楽真師 (大谷大学学長)	伏見別院
23日(日) 10:00~12:00	岡崎	春季彼岸会並びに永代経総経 法話 三好泰紹師 (大阪区 光明寺)	岡崎別院
24日(月) 9:30~11:30	五村	春季彼岸会 法話 長嶋明子師 (近江第6組 願證寺)	五村別院
24日(月) 14:00~16:00	山科	御正当法要(速夜) 法話 広瀬俊師 (大阪区 法観寺)	山科別院
25日(火) 9:30~11:30	五村	春季彼岸会 法話 藤森了堅師 (長浜第23組 真西寺)	五村別院
25日(火) 10:00~12:00	山科	御正当法要(日中) 法話 広瀬俊師 (大阪区 法観寺)	山科別院
26日(水) 9:30~11:30	五村	春季彼岸会 法話 京極眞了師 (長浜第12組 即性寺)	五村別院
27日(木) 12:00~13:00	赤野井	定例法要(宗祖親鸞聖人) 法話 中川眞師 (別院輪番)	赤野井別院
27日(木) 14:00~16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 長紀子師 (近江第9組 願念寺)	伏見別院

岡崎別院落慶法要

4月26日(土) 午後2時 **大改修 納骨堂完成**



- ・ご門首御親修
- ・法話 真城義麿師
四国教区善照寺住職
真宗大谷学園専務理事



記念行事 4月19日(土) 落語会 午後2時 無料 事前申込制
5月11日(日) フェスティバル 花まつり 午前11時 無料

岡崎別院 京都市左京区岡崎天王町26

一編一集一後一記

畑で作物を育てておられる門徒様方から時々、お野菜をいただくことがある。あまり見たことのない珍しい野菜をいただいた時は、野菜とその調理方法を調べる。その度に新しい知識が増えていく事も楽しみの一つである。特に野菜の値段が高騰している時に野菜をいただくと、嬉しさは倍増。「店で買わなくていいし、得をした!」という思いが沸き起こる。

私の損得勘定もオマケでついてくるようだ。
(出版部会 徳田潤子)

【表紙の写真】「お堂での体験 近江第8組 安樂寺 子ども会の花まつりにて」(赤松崇麿/教区駐在教導)

